第２回
こども未来拠点施設整備
基本構想検討懇話会

こども未来拠点施設整備基本構想骨子（案）

令和８年11月18日
金沢市

１．第１回会議の主な意見

２．他都市事例の視察結果について

３．整備基本構想骨子（案）

４．意見交換の論点と今後のスケジュール

１．第１回会議の主な意見

（１）施設のコンセプトについて

- 教育プラザ富樫の**研修機能や相談機能をしっかりと維持継承し**、**発展させていくことが重要**である。
- 必要な人だけでなく、誰もが気軽に訪れたくなるような、**地域に開かれた施設**となってほしい。
- 年代や障害の有無などに関わらず、多様な人々の居場所となる**「共生」**と、教育・福祉・地域がつながり、共に新しい価値を創出する**「共創」**をかけあわせたコンセプトになるとよいのではないか。

１．第１回会議の主な意見

（２）必要な機能について

＜教育・保育の質の向上に関する意見＞

- オンラインだけでなく、教職員等の交流の機会ともなる**対面研修が実施できるスペースや駐車場**を確保してほしい。
- 研修以外でも、教職員等の**自主的な研さんのためのスペースや資料・書籍等**を備えてほしい。
- 保育所との一体整備や小学校が近接していることを生かし、**現場での実践研修や幼保小の連携**、学校や保育所における**地域交流を推進する拠点**となってほしい。

＜相談、子育て支援に関する意見＞

- 現在ある**相談室や子育て広場、情報案内機能を維持**するとともに、気軽に利用しやすい工夫が必要である。
- **屋内でこどもが体を使ってのびのびと遊べる空間**があるとよい。

＜多世代交流に関する意見＞

- こどもと高齢者が日常的に交流することは、**こどもたちの豊かな心を育むことにもつながる**。
- **中高生や大学生も含めた多世代の居場所**となるとよいのではないか。

１．第１回会議の主な意見

（３）ハード整備について

- 開かれた施設とする一方で、**相談者等のプライバシーや、児童の安全確保**等に配慮する必要がある。
- 障害のある方でも利用しやすい**インクルーシブな施設**としてほしい。
- 単に交流のための場所やイベントの提供だけでなく、**自然な形で多世代が出会う空間設計**としてほしい。
- 駐車場に加え、幅広い年代の人がアクセスしやすいよう**駐輪場**も必要である。
- こどもから高齢者、障害のある方まで使いやすい施設になることは、**災害時の安全安心な避難環境**の構築につながる。
- 基幹的な機能に必要な面積の確保を優先に、今後、保育所を含め各機能に必要な面積や課題を整理し、**知恵と工夫により限られた敷地を有効に活用**してほしい。

（４）その他

- 障害のある方や学生、地域住民などで運営するカフェの設置など、**施設や地域の活性化につながる柔軟な施設運営**を検討してほしい。
- 他都市の事例について、多世代交流を促進する工夫などを確認し、報告してほしい。

１．第１回会議の主な意見

２．他都市事例の視察結果について

３．整備基本構想骨子（案）

４．意見交換の論点と今後のスケジュール

２．他都市事例の視察結果について

豊明市共生交流プラザ「カラット」　愛知県豊明市（人口：67,693人※R8.10.1時点）




多目的室


みんなのテラス

施設概要

開設	令和４年５月（統合により閉校した旧唐竹小学校校舎を改修整備）
規模	敷地面積　16,979㎡　延床面積　6,562㎡
主な機能等	多世代活動室機能、子ども子育て支援機能 生涯学習機能、地域共生社会づくり、児童発達支援センター
年間来館者数	延べ約36万人（R7年度）

特徴的な取組等

- ラウンジやテラス、子育て世代交流スペースなどのフリースペースが充実
- 予約のない有料スペースを学習スペースとして開放するなど柔軟な運営
- 有料スペースは学生でも使いやすい料金設定
- 多様な団体の活動が行われることで、それらを孤立、不登校、ひきこもり等の困難を抱える人の居場所として結び付けることができるようになった。
- 児童発達支援センターは通所者の安全性やプライバシーに配慮し、専用の出入口、駐車場、園庭を整備

出典：豊明市HP、豊明市共生交流プラザカラットHP、豊明市提供資料

2．他都市事例の視察結果について

くにたち未来共創拠点「矢川プラス」　東京都国立市（人口：77,437人※R8.10.1時点）





とおり土間



スタディコーナー

施設概要

開設	令和５年４月（令和３年開園の矢川保育園と併せて新築整備）
規模	敷地面積　約5,000㎡ 延床面積　矢川プラス　1,902㎡　矢川保育園　869㎡
主な機能等	児童館、子育てひろば、多目的ルーム、スタジオ 幼児教育センター（児童発達支援事業含む）
年間来館者数	延べ約33万人（R7年度）

特徴的な取組等

- コンパクトな施設ながら、エントランスに机や椅子を設置して憩いのスペースとしたり、廊下を学習スペース(スタディコーナー)にするなど、共用部分を有効に活用
- 指定管理者が自主イベント等を企画・実施
- 多世代交流を促進するイベントに、こどもと高齢者のつなぎ役として地元の大学生を運営に取り込むなどの工夫
- 地元の商店街や大学等との地域連携事業を実施

出典：国立市HP、くにたち未来共創拠点「矢川プラス」HP、(福)くにたち子どもの夢・未来事業団提供資料

１．第１回会議の主な意見

２．他都市事例の視察結果について

３．整備基本構想骨子（案）

４．意見交換の論点と今後のスケジュール

３．整備基本構想骨子（案）

基本理念・役割

基本理念

教育・福祉・地域が連携し、社会とのつながりの中で
こどもとその保護者が育ち、育てる喜びを実感できる拠点

役割

- 実践的な取組を通じた教育・保育の質のさらなる向上
- 教育と福祉の連携によるこどもと保護者を支える体制の強化
- 多世代の居場所となり、こどもと保護者が地域社会とのつながりを感じられる場の創出

少子化、核家族化の進展や、働き方・住まい方の多様化などにより、地域とのつながりが希薄化する時代において、
すべての大人がこどもの育成に責任を有することを改めて認識し、**地域社会のあらゆる人が互いに関わり合い（共生）**、
ともにこどもたちの明るい未来を創るために協力（共創）することで、３つの役割を果たし、基本理念の実現を目指します。

３．整備基本構想骨子（案）

必要な機能

これまで教育プラザ富樫が担ってきた**「研修・研究機能」、「相談・支援機能」を基幹機能とし**、
三馬保育所との一体整備を生かした機能強化を図るとともに、**新たに「多世代交流機能」を付加**します。

各機能の内容

研修・研究機能

保育所との一体整備や小学校と近接する立地を生かし、幼児教育、学校教育に関する現場での実践を通じた研修や研究の推進等により、教職員及び幼児教育・保育職員の指導力・専門性を高めます。

＜想定される取組例＞

- 教職員及び幼児教育・保育職員向けのオンライン及び対面での研修
- 新　三馬保育所を実践的研修やモデル事業の場とした幼児教育・保育の質を高める研究
- 新　三馬小学校とも連携した幼保小の接続強化　など

必要な空間・設備例

- 大規模な研修にも対応可能な講義スペース
- 教職員の自主的な研さんのための書籍・資料のライブラリーや学習スペースなど

３．整備基本構想骨子（案）

必要な機能

相談・支援機能

こどもの発達や教育、育児に関する多様な課題に応える総合的かつ専門的な相談支援体制を構築するとともに、不登校のこどもたちの社会的自立に向けた支援を行います。

＜想定される取組例＞

- 発達・教育、育児や学校生活などの悩み、不安に関する相談に応じ、関係機関と連携しながら継続的に支援
- 不登校の小中学生が通室する教育支援センターの運営
- 未就学児を対象とした子育て広場の運営
- 子育てに関する様々な情報の発信
- 新 気軽に相談でき、悩みを抱える人と必要な支援や多様な団体の活動とをつなげる仕組みの構築
- 新 子育て家庭を支える支援者の育成に向け、三馬保育所を活用した実地研修の実施　など

必要な空間・設備例

- 総合的な相談窓口及びプライバシーに配慮した個別相談スペース
- 乳幼児が安心して遊べる子育て広場
- こども、子育てに関するＮＰＯや市民サークル等各種団体の活動スペース　など

３．整備基本構想骨子（案）

必要な機能

新 多世代交流機能

こどもや子育ての当事者、教育や福祉に関わる人だけでなく、多様な人々の交流により、こどもの豊かな心の成長を促すとともに、子育て家庭が孤立することなく、地域社会全体で支える機運を醸成します。

＜想定される取組例＞

- 子育て世代同士、教職員、幼児教育・保育職員同士など、横のつながりの創出
- こどもや子育て世代と高齢者、学生など、縦のつながりの創出

必要な空間・設備例

- 多目的な利用に対応できるスペース
- こどもがのびのびと遊べる屋内の遊び場
- 中高生や若者が気軽に使えるスペース
- 目的のある人もない人も、誰もが憩い、交わるオープンスペース　など

３．整備基本構想骨子（案）

三馬保育所について

前述の各機能と連動し、各事業の実践の場としての役割を果たすとともに、情操教育、食育や、多機能化のモデルとなる保育所を目指します。

また、利用定員数については、少子化の進展を踏まえて見直しを検討します。

＜想定される取組例＞

〇保育所としての機能向上

- 新 医療的ケア児の受入れ
- 文化芸術プログラムや食育活動

〇拠点施設の各機能との連動

- 新 幼児教育・保育に関する研究や研修の実践の場としての活用
- 新 地域住民との交流活動の実施等、地域とのつながりの強化　など

必要な空間・設備例

- 新 医療的ケア児受入れのための静養室等の専用空間及び設備
- 新 専用のアトリエルームやランチルーム
- 新 現場研修にも対応可能な保育室　など

３．整備基本構想骨子（案）

全体像

基本理念

教育・福祉・地域が連携し、社会とのつながりの中で
こどもとその保護者が育ち、育てる喜びを実感できる拠点

役割

教育・保育の質の向上　**支える体制の強化**　**つながりの場の創出**

共生と共創により３つの役割を実現

機能・取組等

研修･研究機能

- 教職員等への研修
- 質を高める研究
- 幼保小連携の強化　など

相談･支援機能

- 発達・教育等の相談
- 教育支援センター
- 子育て広場　など

多世代交流機能

- 交流の創出
- こどもの遊び場
- 憩いの空間　など

連携・連動　連携・連動　連携・連動

三馬保育所

・ 多機能化　・ 情操教育等の推進　・ 地域交流活動の強化　など

３．整備基本構想骨子（案）

施設整備に関する留意点・課題

拠点施設の整備について、以下の留意点や課題を踏まえ、次年度以降の計画・設計段階において
基本構想の実現に向けた具体的な検討を進めます。

（１）施設の規模及び配置

- 基幹機能となる研修・研究や相談・支援に必要な空間を確保した上で、諸室の共有化・多目的化、共用部の有効活用など、柔軟な空間設計により多世代交流に必要な空間を確保
- 教育支援センター「そだち」について、通所児童が過ごす環境やプライバシーに配慮した配置、専用動線の設定
- 保育所について、適切な利用定員数に応じた規模や、児童の安全性に配慮した配置、動線の設定
- 地域防災力の向上に向け、浸水想定区域であることを踏まえ、２階以上に避難所ともなる空間や備蓄倉庫の配置

（２）施設の設計

- 誰もが気軽に訪れ、自然に多世代が交わる空間設計
- 乳幼児、妊婦、高齢者や障害のある方まで、誰もが利用しやすいインクルーシブな施設設計

３．整備基本構想骨子（案）

施設整備に関する留意点・課題

（３）施設へのアクセス

- 研修参加者や親子連れがアクセスしやすいよう、現三馬保育所用地の活用も含めた必要な駐車スペースの確保
- 中高生を含むこどもたちも気軽に訪れることができるよう、自転車の駐輪スペースの確保
- 敷地への入退場動線を踏まえた上で、周囲の歩行空間等の拡充

（４）施設の運営

- 飲食を提供できるスペース（カフェなど）の設置を含め、訪れた人が心地よく過ごし、交流が生まれる仕組みづくり
- 学生や地域団体、市民活動団体等が利用しやすい運営方法や、施設の取組に主体的にかかわる仕組みづくり

１．第１回会議の主な意見

２．他都市事例の視察結果について

３．整備基本構想骨子（案）

４．意見交換の論点と今後のスケジュール

第２回会議における意見交換の論点

・基本理念・役割について

・必要な機能や想定される取組等について

・施設整備に関する留意点・課題の補足事項　　など

今後のスケジュール

第１回会議（8/24）	各施設の概況と基本的な方針の整理
第２回会議（本日）	**基本構想骨子（案）**
第３回会議（冬頃）	基本構想（案）とりまとめ
年度内	基本構想策定